

SUNTORY

サントリーのサステナビリティ経営と 水循環への取り組み

2024年3月1日
サントリーホールディングス株式会社
サステナビリティ経営推進本部 課長
瀬田玄通

サントリーグループ概要

サントリーホールディングス株式会社

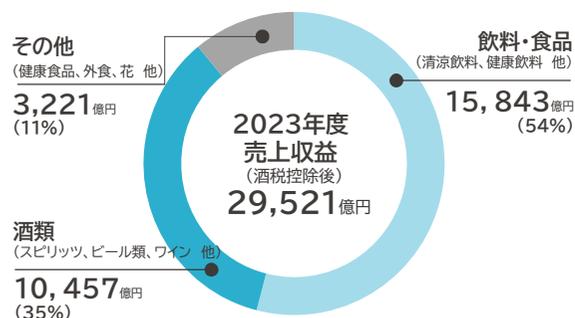
創業 : 1899年
 代表取締役会長 : 佐治 信忠
 代表取締役社長 : 新浪 剛史
 連結売上収益(酒税控除後) : 29,521億円 *1
 連結売上収益(酒税込み) : 32,851億円 *1
 連結営業利益 : 3,172億円 *1

*1 : 2023年1月1日~2023年12月31日

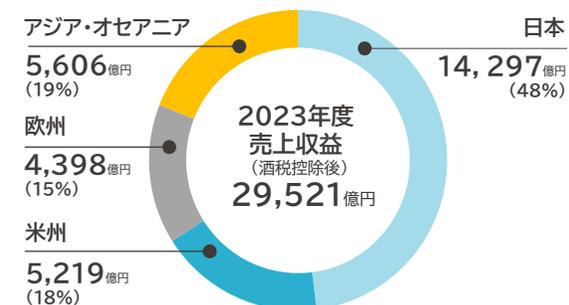
商品・サービス



事業セグメント別売上



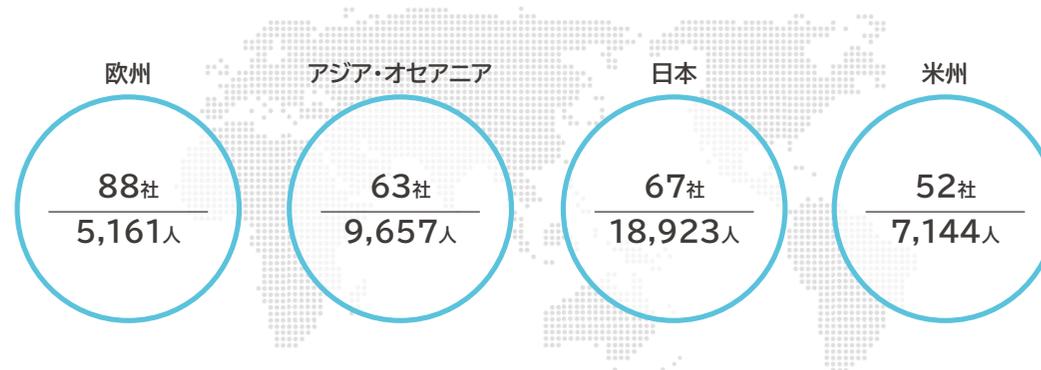
地域別売上



地域別グループ会社数/従業員数

グループ会社数 : 270社 *2
 従業員数 : 40,885人 *2

*2 : 2022年12月31日現在



人と自然と響きあう社会の実現へ

サントリーグループは、水や農作物など自然の恵みに支えられた総合酒類食品企業として、自然環境を守り育むことと、人々の生活を潤い豊かにすることが共存し、すべての生命が輝ける社会を、皆さまと共にめざします。



その土地が育む良質な水とともに価値を創造

創業者
鳥井 信治郎



創業
1899



ウイスキーの語源は
“生命の水”

2代目社長
佐治 敬三



1963

ビール事業に進出



工場建設は徹底的な水探しから

1973

白州蒸溜所開設



花崗岩で磨かれた天然水

1991

「天然水」発売



山崎蒸溜所建設に着手

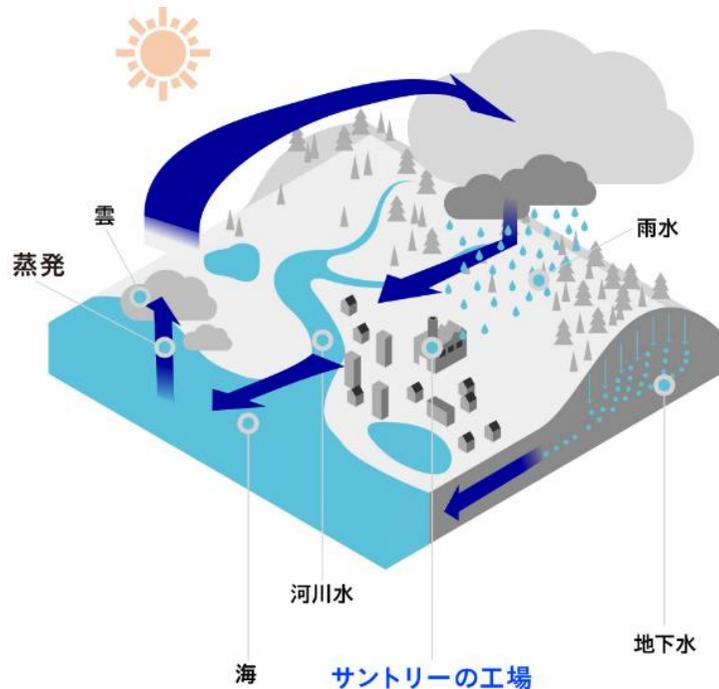
1923



千利休も愛した名水の地

サントリーグループ「水理念」

SUNTORY



サントリーグループ「水理念」

2017年1月制定

1.水循環を知る

使用する水の循環について科学的アプローチに従って流域を調べ、理解を深めます。

2.大切に使う

水の3R(Reduce/Reuse/Recycle)活動を通じて節水に努め、浄化した水は自然に還し、環境インパクトを軽減します。

3.水源を守る

サステナブルな未来を実現していくため、ステークホルダーと協力しながら使用する水の水源保全に努めます。

4.地域社会と共に取組む

社会が豊かになるように、水課題の解決への貢献を通じて地域コミュニティを支援します。

サントリーグループ環境基本方針:

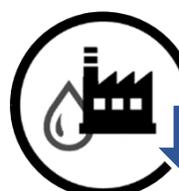
バリューチェーン全体を視野に、事業を展開する各地域で自然界における水の健全な循環に貢献するため、事業活動において最も重要な資源である水を大切に取り扱い、使用する量以上の水を地域で育むことに努めます。

水循環を知る Science Based アプローチ



大切に使う

 持続可能な
水利用の実現
すべての主要原料産地

 50%
削減*1
製品製造工場

水源を守る

 100%
還元
製品工場の水源涵養エリア

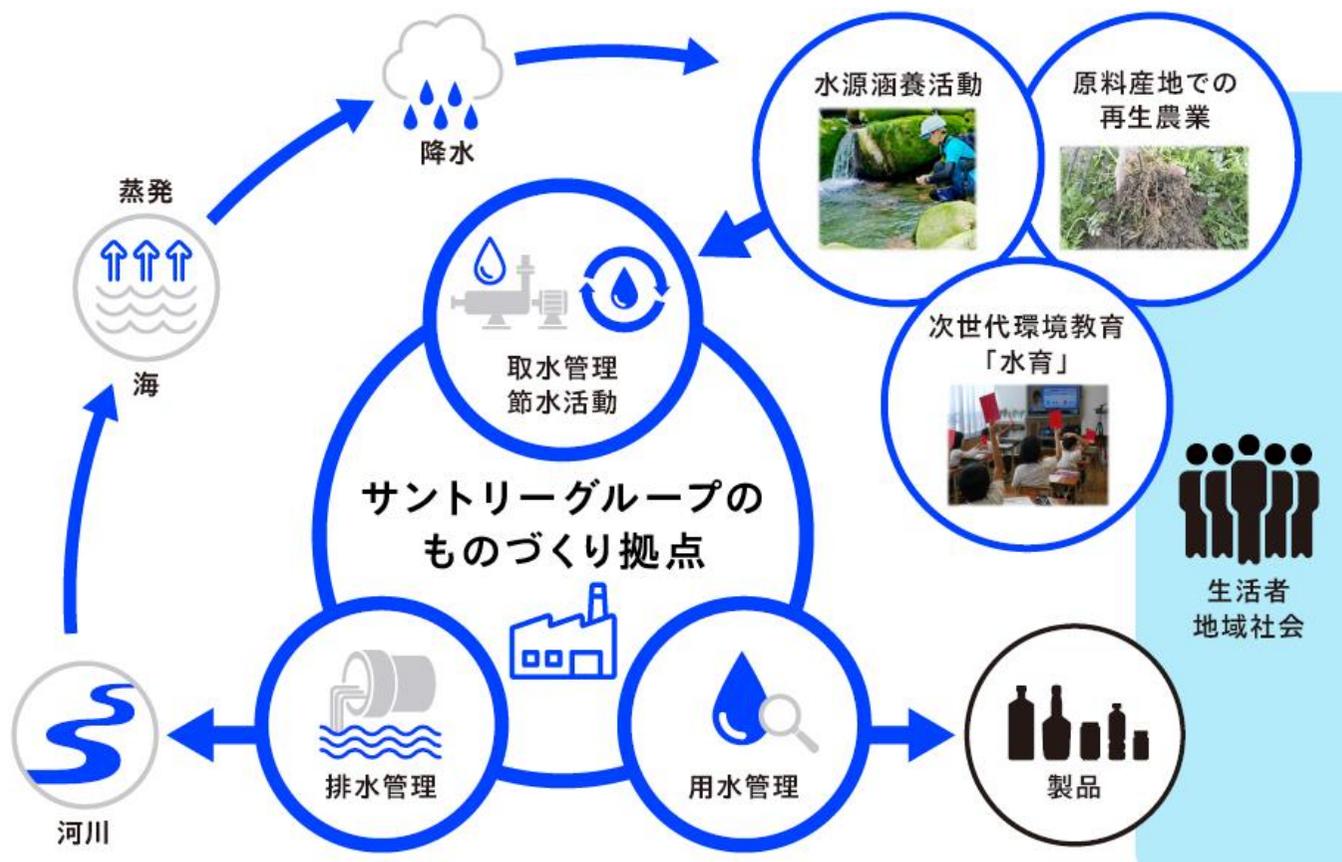
地域社会と共に取組む

 100万人*2

事業展開国への次世代環境教育「水育」と安全な水の提供

*1 基準年:2015年 *2 2030年目標

健全な水循環を守る水のサステナビリティ活動を地域とともに推進



上流

大麦の再生農業パイロット(英国)



英国の大麦サプライヤーと農業協同組合らとの連携によるパイロットスタディ

「冬水たんぼ」による地下水涵養



冬季水田湛水

農家向けの説明会

「天然水の森」における地下水涵養



サントリー「天然水の森」

林業作業道の作道



九州熊本地域における水のサステナビリティ活動の事例

下流

下六嘉湧水群の浮島神社での工場従業員による清掃活動



浮島神社

神社での清掃活動

工場排水の水質管理



工場の排水処理施設

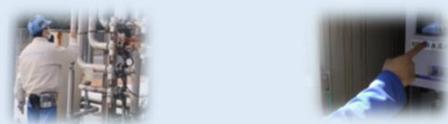
放流河川での水質影響評価

「次世代環境教育 水育」



工場敷地内

井戸の取水管理と節水活動



点検による水使用量の適正化

計器による地下水取水の最適化



水使用量の削減

環境目標 2030



工場節水

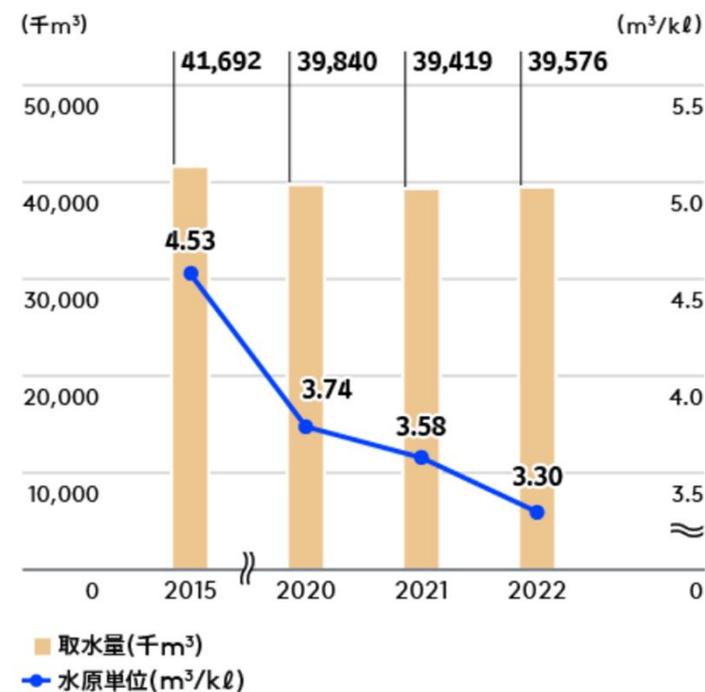
自社工場^{※1}の水使用量の原単位をグローバルで**35%**削減^{※3}。特に水ストレスの高い地域においては、水課題の実態を評価し、水総使用量の削減の必要性を検証。

2022年実績

- 原単位15年比**28.0%**削減

※1 最終製品を製造する自社拠点
※3 2015年を基準年として

水使用量削減実績の経過



※ 原単位は製造1klあたりの使用量を表す
※ 2022年は国内生産27工場、海外生産62工場が対象

水源保全活動

環境目標 2030



水源涵養

自社工場^{*1}の半数以上で、水源涵養活動により使用する水の**100%以上**をそれぞれの水源に還元。特に水ストレスの高い地域においてはすべての工場で上記の取り組みを実施。

2022年実績

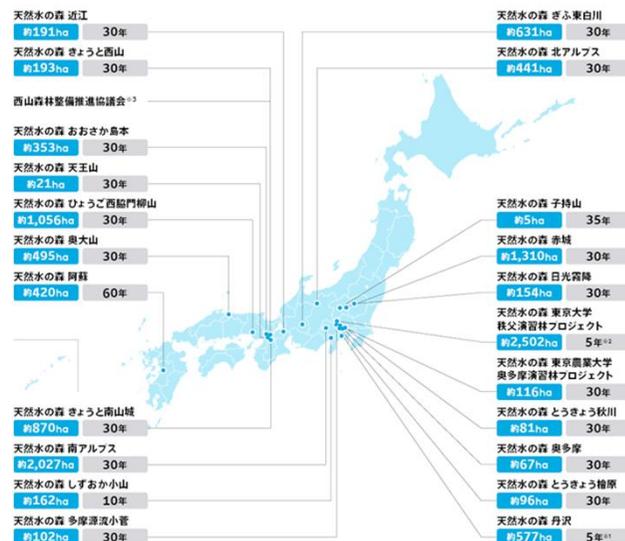
- 全世界の自社工場の**34%**で水源涵養活動を実施
- 水ストレスの高い地域にある工場においては、その**30%**で活動を実施

「サントリー 天然水の森」活動

全国15都府県 22ヵ所(2023年2月時点)

12,000ha

対象面積 契約年数^{*4}



地下水涵養量 > 工場での地下水取水量
日本ではウォーター・ポジティブを実現

「サントリー 天然水の森」 - 放置人工林の間伐による林床植生の回復 -

SUNTORY



手入れされず放置された人工林



1回目の間伐後

伐採木を等高線上に並べて
土留めと種子の止まり木とする



林床植生の回復

2回目間伐以降は林床植生の
障害とならないよう材を搬出

健全な森林土壌を保護・育成することで地下水の涵養機能を高める

間伐前

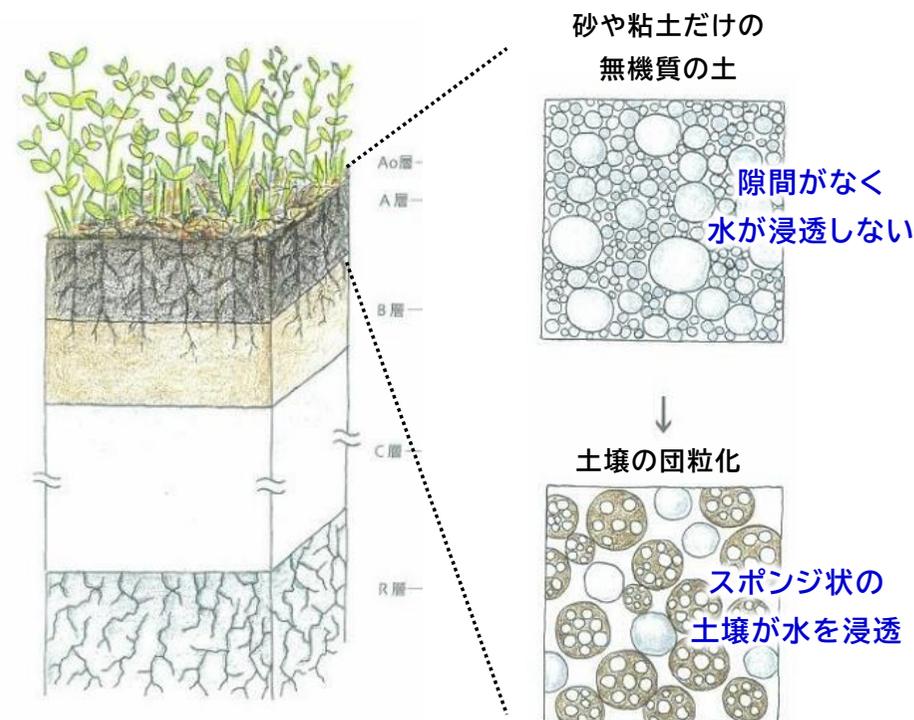
- 密度が高く蒸散量が多い
- 日照がなく下草が育たない
- 土壌の表面流出が多い

間伐後

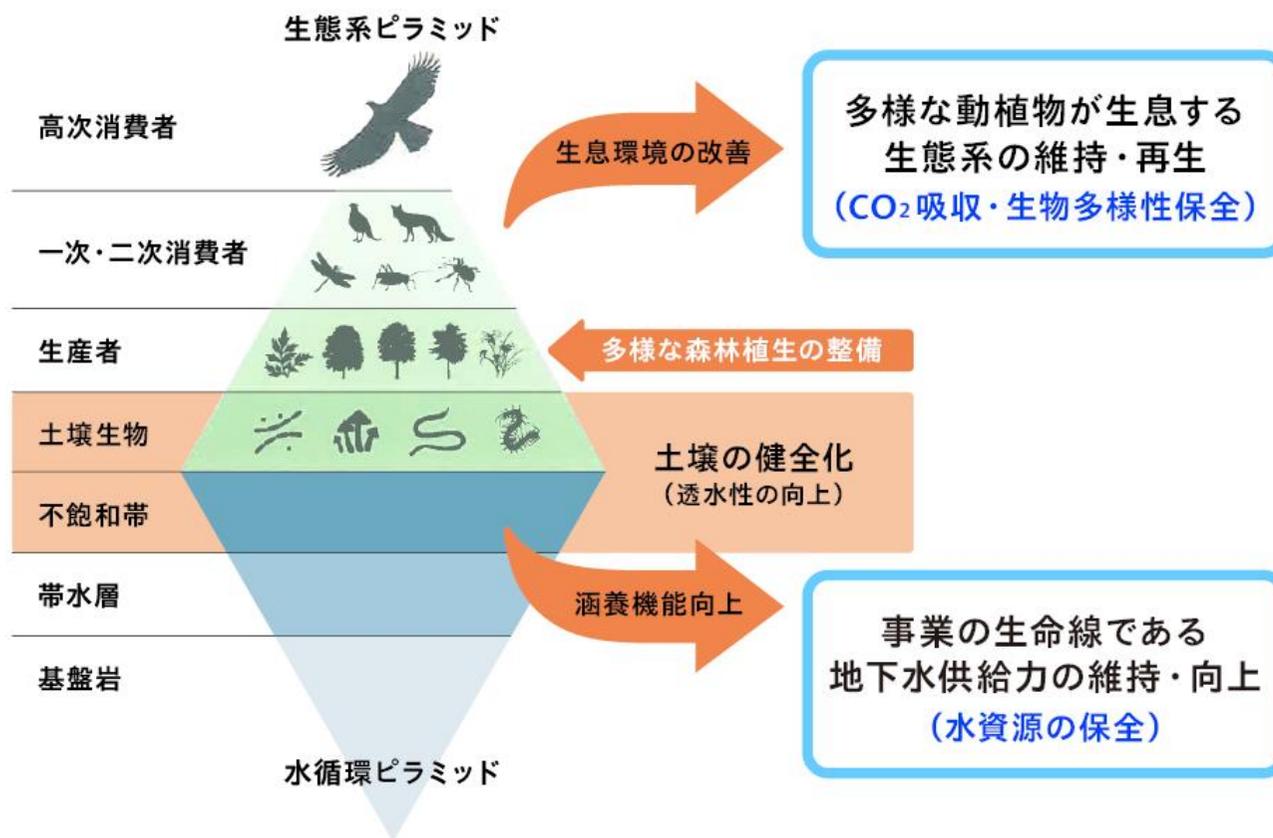
- 蒸散量が抑制される
- 林床到下草が回復する
- 土壌流出が抑制される



落葉などの有機物や土壌動物による土壌の健全化



地下水涵養力の高い森は生物多様性に富んだ森とほぼイコールである



ワシ・タカ子育て支援プロジェクト

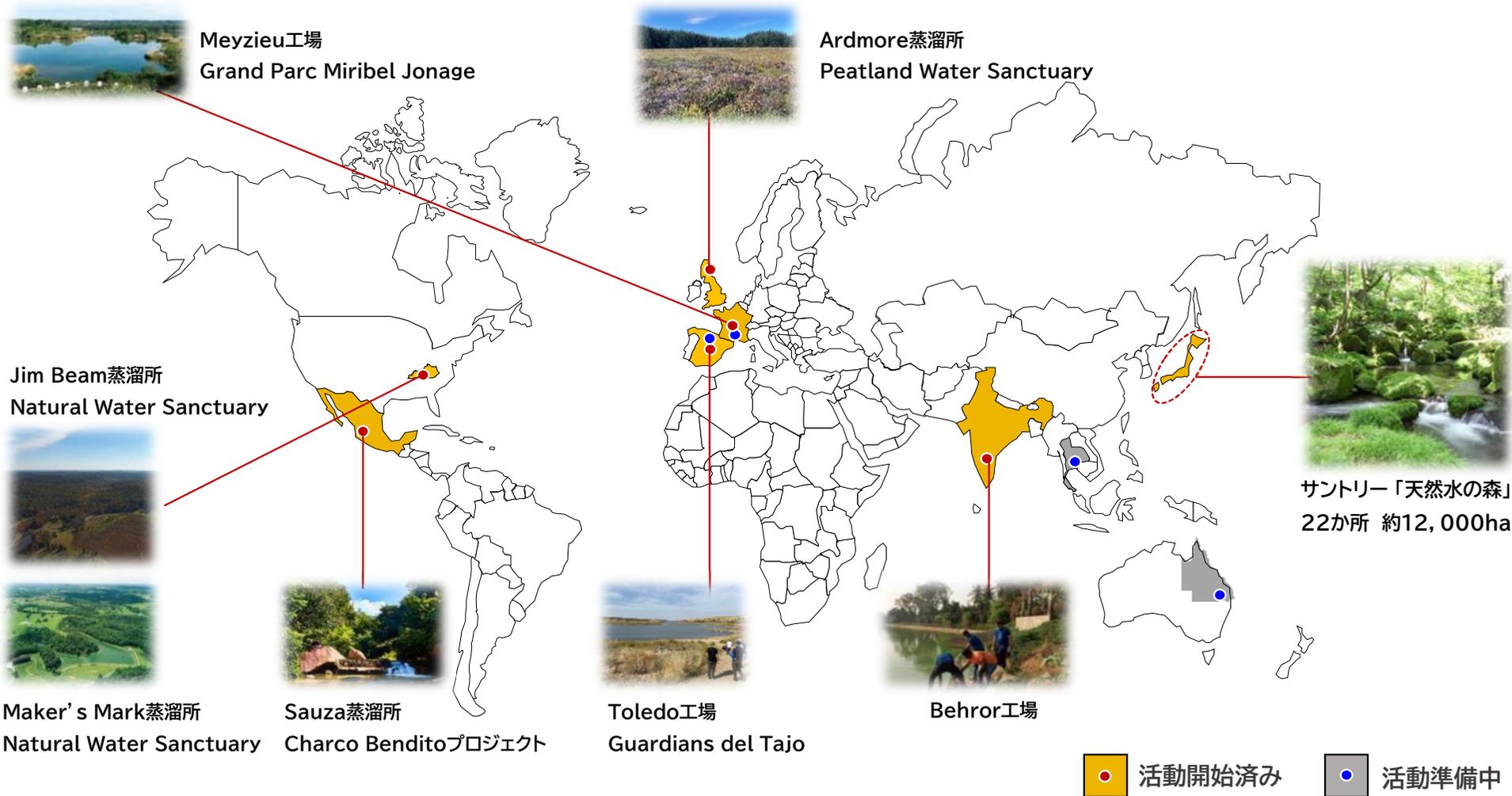


環境省が「30by30」目標達成に向け推進する「自然共生サイト」に「天然水の森」の5カ所が認定



- 「サントリー 天然水の森 ひょうご西脇門柳山」(兵庫県西脇市)
- 「同 とうきょう秋川」(東京都あきる野市)
- 「同 しずおか小山」(静岡県駿東郡小山町)
- 「同 日光霧降」(栃木県日光市)
- 「同 近江」(滋賀県蒲生郡日野町)

世界に広がる水源涵養活動



原料産地での取り組み

環境目標 2030



原料生産

水ストレスの高い地域における水消費量の多い重要原料^{*4}を特定し、その生産における水使用効率の改善をサプライヤーと協働で推進。

2022年実績

- 再生農業による大麦生産の取り組みの一環として、土壌の保水性向上による水使用効率の改善に関する検証をサプライヤーと協働して開始
- ブラジル・セラード地域のコーヒー農家に対して、再生農業を通じた水利用の評価・支援等を行うパイロットプログラムの構築を開始

大麦産地における再生農業パイロットの例

【推進体制】



【インパクト】

約 **400** エーカー

1,000 トンの麦芽調達

2024 から使用開始

水の啓発プログラムの展開

環境目標 2030



水の啓発

水に関する啓発プログラムに加えて、安全な水の提供にも取り組み、合わせて**100万人**以上に展開。

2022年実績

- 累計**81万人**に展開
次世代環境教育「水育」などの水啓発プログラム：51万人
安全な水の提供：30万人

次世代環境教育「水育」とは

子どもたちが、自然のすばらしさを感じ、水の大切さに気づき、未来に水を引き継ぐために何ができるかを考えるきっかけとなる。

mizuiku

教育内容

- 水の大切さと水循環を理解してもらう
- ローカルな水課題を理解してもらう
- 水に関する課題を子供たちから周囲にも共有し、地域社会の意識変容に繋げる

地域を超えた普遍的な教育プログラムとしてアジア、欧州に広く展開

 2004~



- 水の循環
- 水の大切な使い方

+ 地域の水課題

ベトナム

 2015~



タイ

 2019~



インドネシア

 2019~



フランス

 2020~



中国

 2021~



スペイン

 2022~



イギリス

 2023~



ニュージーランド

 2023~



NEW



水と生きる SUNTORY



Harumichi_Seta@Suntory.co.jp